

山地小流域における物質輸送過程 - 瀬戸内海沿岸の例

Mass transport process in a small mountainous catchment; a case of a region around Seto Inland Sea

小野寺 真一[1], 西宗 直之[2], 藤崎 知恵子[3], 成岡 朋弘[4]

Shinichi Onodera[1], Naoyuki Nishimune[2], Chieko Fujisaki[3], Tomohiro Naruoka[4]

[1] 広大・総, [2] 広大・生物圏・共存, [3] 広大・生物圏, [4] 広島大・院・生物圏

[1] Integrated Sci., Hiroshima Univ, [2] Biosphere Sci., Hiroshima Univ., [3] Biosphere Sci., Hiroshima Univ, [4] Graduate School of Biosphere Sciences, Hiroshima University

山地流域の多くは水源地域となっており、将来にわたり質的に保全していくことは重要である。大気汚染の進む都市近郊では、酸性雨とともに重金属が流域にもたらされるため、これらの成分の流域内での挙動を明らかにすることは重要である。しかし、従来の研究ではこの点は十分に解明されていない。本研究では、瀬戸内海沿岸の花崗岩山地流域において、大気から降下している微量金属を対象とし、その流出機構について明らかにすることを目的とした。